

Japanisch-
Deutsches
Kulturinstitut

公益財団法人日独文化研究所

所 報

Newsletter des Japanisch-Deutschen Kulturinstituts

2017年度
第6号

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3

間文化の場としての「日独文化研究所」

日独文化研究所 所長 大橋 良介

いまフランクフルト空港ロビーで帰国便を待ちながら、この一文を草している。サン・パウロでの学会から帰る途中の、中間休憩地点だ。この一年はドイツ語圏への学会出張だけでなく、イランのテヘランとブラジルのサン・パウロへの講演出張も、加わった。前者はペルシャ語が、後者はポルトガル語が、公用語の街だ。そこではドイツ語はもちろん、英語もほとんど通用しなかった。

政治や経済の実情も、この両国は私が行き慣れていた西欧諸国と甚だ事情を異にしていた。イランはイスラームのシーア派が主流で、スンニ派が多数を占めるサウジアラビアと対立している。またブラジルは、中国やインドにつづく第三の発展途上の大国と言われながら、種々の要因から経済は容易に発展せず、治安は単なる悪化の域を超えて、殊にリオ・デ・ジャネイロでは治安崩壊の様相を帯びていると聞いた。

ネットでの報道を通じて、たいいてい情報は一般にも大なり小なり知識として得られる。ただし、すぐに頭を素通りする。それに対して直接・間接に街中で見聞して得られる「実感」は、身体的感覚となって体内に沈殿し、生活経験を形成していく。この身体的実感は、「間文化」(インターカルチャー) 的な対話や討論の場で照らし出されるべき主題となる。

上記サン・パウロでの学会は、部分的には本研究所が本年七月に主催した学術交流シンポジウム「間文化的に考える」の続編でもあった。この学術交流シンポジウムは「ドイツ・インド・イタリア・ブラジル・日本の視点から」という副題を持ち、これらの諸国からの参加者を得ていた。参加者のなかで、私を含めた四人がサン・パウロでの学会に招かれたのだ。すなわち間文化哲学学会会長でウィーン大学のゲオルク・シュテンガー教授、防衛大学校の轟孝夫教授、そしてブラジル・カンピナス大学のアントニオ・フロレンティーノ教授。サン・パウロでの学会の主催者兼オルガナイザーは、このフロレンティーノ教授だった。

本研究所の評議員・理事・監事・研究員・事務局員たちも、目下それぞれの専門分野で各国の学会を東奔西走している。いま「日独文化研究所」は、日本とドイツの二国を超えて、グローバル世界の「間文化」の発信と受信の場となっている。

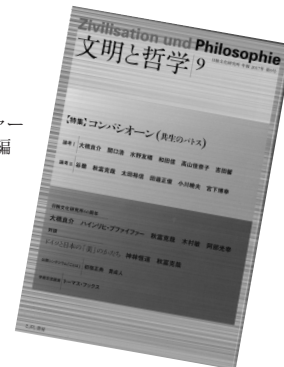
年報『文明と哲学』第9号刊行

年報『文明と哲学』の第9号を平成29年3月にこぶし書房を通じて発行いたしました。今号は、本研究所の創立60周年を記念して、名誉顧問ハインリヒ・プファイファー氏にご寄稿いただくとともに、特集テーマとして「コンパシオン(共生のパス)」を設定いたしました。本研究所の役員、研究員等による論考、対談、公開シンポジウムの成果、学術交流事業の成果(一部)を収録しております。

- 日独文化研究所六〇周年
- ・回顧と展望 … 大橋良介
- ・日独文化研究所六〇周年に … ハインリヒ・プファイファー (大橋良介・訳)：他三編
- 【特集】コンパシオン(共生のパス) / 論考Ⅰ・Ⅱ
- ・「私に触れてはいけない Noli me tangere」
- ・「悲」(コンパシオン)の現象論(四) … 大橋良介
- ・対人援助のあり方とコンパシオン
- ・震災後傾聴ボランティアに携わる僧侶金田諦應の実践 … 和田信
- ・裁判員裁判と量刑改革における「共感」の意義 … 高山佳奈子：他九編

対 談

- ・ドイツと日本の「美」のかたち … 神林恒道 + 秋富克哉
- その他、公開シンポジウム「ことば」および学術交流講演の論考を掲載。



平成28年度 第26回 公開シンポジウムを開催

平成28年度の公開シンポジウムは、平成28年12月4日（日）、京都大学吉田キャンパス法経本館 法経第7教室にて、約60名の参加を得て開催されました。今回は、連続テーマ「ことば」の4回目として、「言葉の襲」をテーマに、長谷川郁夫氏（文芸評論家）に「言葉の襲Ⅰ」、中沢けい氏（作家）に「言葉の襲Ⅱ」と題してご提題いただきました。また、ご提題を承けて、両氏に「言語の身体性をめぐって」と題した対談も行っていただきました。

ご対談の終了後、本研究所の小川理事を司会としてパネル討論が実施されました。参加者からの質疑もあり、活発な討論が展開されました。

本年度は、平成29年12月3日（日）に、京都大学吉田キャンパス法経本館 法経第7教室にて、新たな連続テーマ「文明」の1回目として、「文明の起点。宇宙進化と生物進化の視野からの提言」と題して、松井孝典氏（東京大学名誉教授・千葉工業大学惑星探査研究センター所長）、湯本貴和氏（京都大学教授・京都大学霊長類研究所所長）にご提題いただく予定です。



哲学講座 平成28年度の報告

日独文化研究所の中心的活動のひとつが、市民一般に開かれた「哲学講座」です。昨年度は3季にわたり、のべ17回開講されました。会場は全講座とも公益財団法人日独文化研究所セミナー室でした。

◎初夏講座 「対話する西田哲学」

全6回；平成28年5月31日～7月5日
大橋良介氏（本研究所所長）を講師に招き、「人生との対話」、「時代との対話」、「西洋思想との対話」、「宗教との対話」、「現代との対話」をテーマとして、西田哲学のさまざまな側面について、広範な内容で充実した講座が展開されました。

◎中秋講座 「ハイデガーと詩人たち」

全6回；平成28年10月4日～11月8日
松本啓二郎氏（大阪教育大学准教授）を講師にお招きし、ハイデガーがヘルダーリン、リルケ、トラークル、ゲオルゲといった詩人達の詩をいかにして読み解き、自らの思索を展開していったかという、興味深い内容から充実した講座が展開されました。

◎初春講座 「ベンヤミンと言語」

全5回；平成29年3月2日～3月30日
第1講～第3講、および、第5講では長澤麻子氏（立命館大学准教授）を講師にお招きし、ベンヤミンの思想に通底している言語の諸概念とその展開について充実した講座が展開されました。第4講では、エバーハルト・オルトラント氏（ビーレフェルト大学学際研究センター研究員・博士）をお招きし、フランクフルト学派とベンヤミンについて、特別講演が行われました。

学術交流 エバーハルト・オルトラント博士による講演会

学術交流 平成28年度の報告

学術交流は、哲学を中心としつつ、現代的な課題への対処、今後の日独学術研究を担う人材の育成を視野に入れて推進しています。平成28年度に実施された学術交流は以下の通りです。

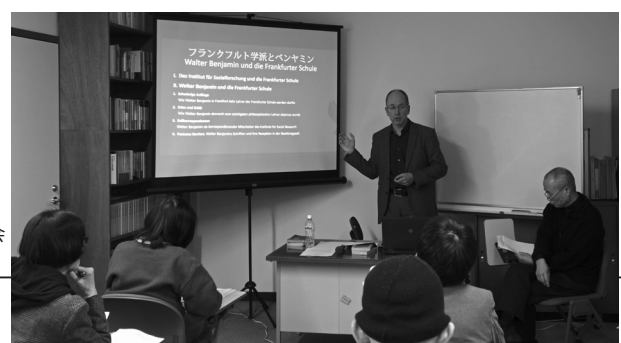
・トーマス・フックス教授（ドイツ・ハイデルベルク大学）
講演会「エゴ・トンネルから抜け出す道—現象学の現代的意義」、平成28年10月6日（木）、於：公益財団法人日独文化研究所セミナー室

・ギュンター・フィガール教授（ドイツ・フライブルク大学）
ゼミナール「見る前に跳べ!」、平成28年12月3日（土）、於：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 小ホール

・ヴォルフガング・カール教授（ドイツ・ハイデルベルク大学）
講演会「憲法の視角から見た行政コントロール」、平成29年3月11日（土）、於：大阪大学豊中キャンパス 待兼山会館2階会議室

・アン-カトリン・カウフホルト教授（ドイツ・ミュンヘン大学）
講演会「システム監督—金融監督を例として」、平成29年3月18日（土）、於：大阪大学中之島センター 404号室

・エバーハルト・オルトラント博士（ドイツ・ビーレフェルト大学）
講演会「フランクフルト学派とベンヤミン」、平成29年3月23日（木）、於：公益財団法人日独文化研究所セミナー室（初春哲学講座の第4回とあわせて実施）





ドイツだより (6) Der Brief von Deutschland

ヨーロッパの中の日本

評議員 松丸 壽雄

2017年9月18日付けのドイツの新聞Rheinische Post紙上のDüsseldorfer Stadtpost欄に「太鼓が恵光ハウスへと呼ぶ。日本文化の一端が伝統的な庭園祭で訪問者の身近にもたらされた」という記事が出た。

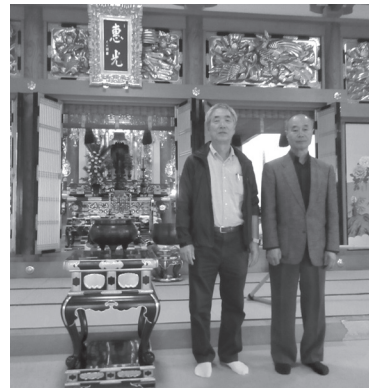
現在私はこの恵光ハウスに勤務している。恵光ハウスの文化事業の一環として、毎年9月頃を目途に「庭園祭」が開催される。その際には、日本式庭園を開放し、恵光ハウスで年間を通して開かれている各種の文化行事のいくつかが披露される。当日は和太鼓演奏に始まり、恵光幼稚園児による歌と踊り、琴演奏、生け花展、日本舞踊の演技、アニメソング歌唱、剣道演武、そして再び和太鼓演奏で締めくくられた。中国デーが同日に旧市内で開催されていたが、多くの人が訪れてくれた。

恵光ハウスとは、精密測定機器会社ミットヨおよび公益財団法人仏教伝道協会の設立者である故沼田惠範氏により「仏教振興会（ヨーロッパ）」、「独日文化協会」（現在の社団法人ドイツ「恵光」日本文化センター）の登録申請がデュッセルドルフ市になされ、1985年に受理され、1988年には同市のニーダーカッセル地区に定礎・建設された施設である。恵光寺という浄土真宗本願寺派の寺を中心に置きながらも、宗派を超えて、仏教に基づく日本文化をヨーロッパに発信する文化センターである。これが開設されたのは1992年になる。付属施設としては、共生館という

別棟の建物があり、そこには仏教研究者、宗教・哲学研究者を擁する研究施設と小規模ながらも仏教図書を備えた図書館、宿泊施設、そして恵光幼稚園(開設1999年)がある。更には山門、日本式庭園、鐘楼も併置されている。

文化センターとしては、仏教を浄土真宗だけに限っておらず、例えば禅宗の坐禅会も長い歴史を持ち、共生館地階のホールでなされている。恵光寺の地階ホールには、仏教の各宗派の行事にも対応できるように、釈迦如来等の本尊を表すことができるような工夫も施されている。また学術研究も当センターの仕事の一環であり、学術図書の出版、シンポジウムの開催等がなされている。更には、日本文化に関わる様々な展示会も年間何回か開催されている。これも、本センターの重要な業務の一部である。

この恵光ハウスの次期所長として、仕事を現所長の青山隆夫教授から引き継ぎつつあるが、その広範さに圧倒されつつ、ヨーロッパ文化の中の日本文化伝達という課題と、責任の重さを改めて気づかされる現在である。



恵光寺の地階ホールにて
著者(左)と大橋良介所長



平成28年度の報告

◎事業報告

- 第26回公開シンポジウムの開催 (連続テーマ「ことば」の4回目)
日時:平成28年12月4日(日)場所:京都大学吉田キャンパス 法経本館 法経第7教室
テーマ:言葉の髪 参加者:60名
講演:長谷川郁夫氏(文芸評論家)「言葉の髪Ⅰ」、中沢けい氏(作家)「言葉の髪Ⅱ」。
対談:長谷川郁夫氏×中沢けい氏「言語の身体性をめぐって」。参加者からの質疑等もあり、活発な討論が展開されました。
- 『文明と哲学』第9号刊行
平成29年3月、こぶし書房から年報『文明と哲学』第9号を刊行しました。
- 哲学講座

- 初夏講座 日時:平成28年5月31日～平成28年7月5日(全6回) 場所:公益財団法人日独文化研究所セミナー室 受講者:23名 テーマ:「対話する西田哲学」 講師:大橋良介氏(本研究所所長)
- 中秋講座 日時:平成28年10月4日～平成28年11月8日(全6回) 場所:公益財団法人日独文化研究所セミナー室 受講者:19名 テーマ:「ハイデガーと詩人たち」 講師:松本啓二郎氏(大阪教育大学准教授)
- 初春講座 日時:平成29年3月2日～平成29年3月30日(全5回) 場所:公益財団法人日独文化研究所セミナー室 受講者:22名 テーマ:「ベンヤミンと言語」 講師:長澤麻子氏(立命館大学准教授)、エバーハルト・オルトラント氏(ビーレフェルト大学学際研究センター研究員・博士;第4回のみ)

5. 『所報』の発行
平成29年3月、『所報』第5号を発行し、賛助会員をはじめ事業参加者などに配布しました。

6. 学術交流
- トーマス・フックス教授講演会 平成28年10月6日
- ギュンター・フィガール教授ゼミナール 平成28年12月3日
- ヴォルフガング・カール教授講演会 平成29年3月11日
- アンバーカトリン・カウフホルト教授講演会 平成29年3月18日
- エバーハルト・オルトラント博士講演会 平成29年3月23日

公益財団法人日独文化研究所評議員・役員一覧 (平成28年3月31日現在)

1. 評議員 阿部光幸氏 木村 敏氏 初宿正典氏 西川伸一氏
松丸壽雄氏 森 哲郎氏
2. 理事 秋富克哉氏(理事長) 大橋良介氏(所長) 高田 篤氏(常務理事)
小川暁夫氏 谷 徹氏 和田 信氏
3. 監事 高山佳奈子氏 津野紀代志氏

理事会・評議員会等の開催

- 平成28年4月12日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前9時より理事会を開催し、次の議案について審議しました。
議案1 ヤンマー株式会社(以下、「ヤンマー」という。)からの寄付が、賛助会費としての会費100万円以上は得られなくなったので、ヤンマーからの寄付減少に見合うだけの公益事業の縮小を行うことを前提として、事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書面を作成し、理事会において再度決議を行う件
議案2 平成28年3月24日理事会で可決された第6号議案(科学技術講演会)の指定寄付金事情変更に伴い、実施を取りやめる件
議案3 「日独両国の学術文化に関する交流と振興を図ることを目的とした、研究および助成事業」遂行のための募集趣意書を作成し、寄付金を募集する件
議案4 第1号議案が否決された場合には、支出超過を解消するために、一般正味財産の内特定資産とされている760万円を取り崩し、それでも不足する部分については、指定正味財産で基本財産に充当されている定期預金・有価証券を取り崩して事業費に充当することとし、それに従った事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書面を作成し、理事会において再度決議を行う件。なお、評議員会の承認を得ることを条件とする。
議案5 第3号議案及び第4号議案が可決された場合には、内閣府の公益認定のある既存事業について従来通り実施し、賛助会費の減額に伴う収入減については不足額についてまず寄附を募り、寄附をもってしても不足額が生じる場合は、評議員会の同意を得つつ、一般正味財産の内特定資産及び基本財産に充当されている定期預金・有価証券を取り崩して補填することとなり、評議員会の承認が必要となるため評議員会を招集し特定資産及び基本財産の取り崩しについて承認を得るための議案を提出する件
なお、第3号議案が否決され、第4号議案が可決された場合には、本議案は以下

(第4面へ続く)

(第3面より続く)

の通り修正して提案する。

第4号議案が可決された場合には、本財団の運営のため、評議員会の同意を得つつ、一般正味財産の内の特定資産及び基本財産に充当されている定期預金・有価証券を取り崩して補填することとなり、評議員会の承認が必要となるため評議員会を招集し、特定資産及び基本財産の取り崩しについて承認を得るための議案を提出する件

審議の結果、議案1のみ否決され、議案2～5は可決されました。

●平成28年5月4日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前10時より評議員会を開催し、次の議案について審議しました。

議案1 平成28年4月12日開催の理事会で、公益財団法人日独文化研究所の事業費に充当するため、事業費に不足を来す金額について、一般正味財産の内の特定資産及び基本財産の取り崩しを行う事が決議されたため、この取り崩しについて評議員会の承認を求める件

審議未了。

●平成28年5月31日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前10時より理事会を開催し、次の議案について審議しました。

議案1 平成27年度事業報告及び決算書類を承認する件

議案2 平成28年度の研究員の採用の件

議案3 評議員会へ提出する役員候補者名簿を承認する件

議案4 定時評議員会を招集する件

審議の結果、議案1, 3, 4は可決され、議案2においては、太田裕信氏、関口浩氏、吉田馨氏が平成28年度の研究員として採用されました。

●平成28年6月22日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前10時より評議員会を開催し、次の議案について審議しました。

議案1 平成28年4月12日開催の理事会で、公益財団法人日独文化研究所の事業費に充当するため、事業費に不足を来す金額について、一般正味財産の内の特定資産及び基本財産の取り崩しを行う事が決議されたため、この取り崩しについて評議員会の承認を求める件の再議決を行う件

議案2 平成27年度の事業報告、貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）及び財産目録の承認の件

議案3 理事の選任の件

議案4 監事の選任の件

審議の結果、議案1と2は可決され、議案3においては、秋富克哉、大橋良介、小川睦夫、高田篤、谷徹、和田信の各氏が理事に選任され、議案4においては、高山佳奈子、道田正信の各氏が監事に選任されました。

●平成28年7月4日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前10時より理事会を開催し、次の議案について審議しました。

議案1 理事長（代表理事）を選定する件

議案2 所長（代表理事）を選定する件

議案3 常務理事を選定する件

議案4 最高管理責任者を選定する件

議案5 研究統括管理責任者を選定する件

議案6 コンプライアンス推進責任者を選定する件

議案7 ハノーヴァー哲学研究所との交流協定延長の確認の件

議案8 平成28年6月22日開催の第5回評議員会で監事に選任された道田正信氏が就任を辞退したので辞退を承認する件

審議の結果、議案1においては秋富克哉氏が理事長に、議案2においては大橋良介氏が所長に、議案3においては高田篤氏が常務理事に、議案4においては秋富克哉氏が最高管理責任者に、議案5においては大橋良介氏が研究統括管理責任者に、議案6においては高山佳奈子氏がコンプライアンス推進責任者に選定されました。議案7及び8は可決されました。

●平成28年9月20日、書面によるみなし決議にて理事会を開催し、次の議案について審議可決しました。

議案1 5月31日開催の第12回理事会について、議事録案の不備を確認した上で議事録を確定させる件

議案2 「公益財団法人日独文化研究所 議事録作成についての規程」を承認決定する件

議案3 「公益財団法人日独文化研究所 研究不正防止規程」の修正を承認決定する件

議案4 いざなぎ監査法人と外部任意監査契約を結ぶことを承認し、契約行為について理事長に一任する件

議案5 志水洵一の補欠として西川伸一氏を評議員会に推薦する件

議案6 津野紀代志氏を監事の候補者として評議員会に推薦する件

議案7 山極壽一氏を名誉顧問に選任する件

議案8 ハインリヒ・ブファイファー氏を名誉顧問に選任する件

議案9 臨時評議員会を招集する件

また、次の事項について報告がなされました。

報告事項1 ヤンマー社が賛助会員から退会したことを報告する件

報告事項2 志水洵一の評議員辞任を報告する件

●平成28年10月10日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて午後2時より評議員会を開催し、次の議案について審議しました。

議案1 志水洵一評議員の補欠として1名の評議員を選任する件

議案2 監事を選任する件

議案3 山極壽一氏を名誉顧問に選任する件

議案4 ハインリヒ・ブファイファー氏を名誉顧問に選任する件

議案5 「公益財団法人日独文化研究所 議事録作成についての規程」を承認決定する件

審議の結果、議案1においては西川伸一氏が評議員に、議案2においては津野紀代志氏が監事に選任されました。議案3～5は可決されました。

また、次の事項について報告がなされました。

報告事項1 ヤンマー社が賛助会員から退会したことを報告する件

報告事項2 志水洵一の評議員辞任を報告する件

報告事項3 三澤廣人の評議員辞任を報告する件

●平成28年10月18日、書面によるみなし決議にて理事会が開催され、次の議案について承認可決されました。

議案1 評議員西川伸一の研究機関として公益財団法人日独文化研究所に登録する作業を府省共通研究開発管理システム（e-Rad）上で行うことを承認決定する件

●平成28年12月14日、書面によるみなし決議にて理事会が開催され、次の議案について承認可決されました。

議案1 ロゴマークについて

本法人のロゴマークとして、京都工芸繊維大学教授中野仁人氏作成のものを採用することを決定し、あわせて杉本特許事務所を通じて商標登録することを決定すること。

議案2 評議員会の招集

上記第1号議案の理事会決定を審議するための評議員会を、書面によるみなし決議の方法で招集すること。

●平成28年12月21日、書面によるみなし決議にて評議員会が開催され、次の議案について承認可決されました。

議案1 第16回理事会〔12月14日開催〕の第1号議案（ロゴマークの件：本法人のロゴマークとして、京都工芸繊維大学教授中野仁人氏作成のものを採用することを決定し、あわせて杉本特許事務所を通じて商標登録することを決定すること）の決定決議を、評議員会において審議すること

●平成29年3月3日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午後2時より理事会が開催され、次の議案について審議しました。

議案1 平成28年度補正予算案を承認決定する件

議案2 平成29年度事業計画案及び予算案等を承認決定する件

議案3 評議員の候補に関する理事長・所長提案について相談する件

議案4 理事の補充について相談する件

議案5 名誉顧問について相談する件

議案6 平成29年度における研究員の採用計画を協議する件

議案7 事務局長水野友晴との契約を更新する件

議案8 事務局長田邊正俊との契約を更新する件

議案9 科学研究費補助事業が採択された場合に、科学研究費の経費担当者としての事務局長を採用する件

審議の結果、議案1～3, 6～9については可決、議案4, 5は現段階の状況を確認の上、継続審議となりました。

また、次の事項について報告がなされました。

報告事項1 理事長及び所長の職務の執行状況についての報告

報告事項2 いざなぎ監査法人との監査契約書の内容についての報告

報告事項3 特定資産「学術文化振興基金」一部取崩しの報告

報告事項4 賛助会員の退会状況の報告

さらに、次の事項について審議がなされました。

審議事項1 賛助会員への新たな特典について

審議事項2 所報バックナンバーの本研究所ホームページへの掲載について

審議事項3 公開シンポジウムの提題者について

審議の結果、審議事項1, 2については可決、審議事項3については、現段階の状況を確認のうえ、継続審議となりました。

◎財務報告

(平成29年3月31日現在)

	資 産				正味財産
	基本財産	特定資産	その他 固定資産	流動資産	
(百万円)	173.3	2.5	15.7	5.6	196.7

	収 入		支 出	
	賛助会費	その他	事業費	管理費
(万円)	255.9	71.3	699.2	222.7

なお、平成28年度には正味財産の減少が594.6万円ありましたが、公益目的事業にあっては、451.8万円の正味財産減少となっており、「収支相償の原則」を満たす結果となっています。公益事業比率は76.5%となっています。

平成29年度活動計画

◎事業計画

1. 第27回公開シンポジウムの開催（連続テーマ「文明」の1回目）

日時：平成29年12月3日 場所：京都大学吉田キャンパス 法経本館 法経第7教室
テーマ：文明の起点。宇宙進化と生物進化の視野からの提言 講演：松井孝典氏（東京大学名誉教授） 湯本貴和氏（京都大学教授）

2. 年報の刊行 『文明と哲学』第10号を、平成30年3月に刊行予定です。

3. 哲学講座の開催

◎初夏講座 「プラトン哲学の諸相」

期間：平成29年6月20日～7月25日（全6回） 講師：丸橋 裕氏（兵庫県立大学教授）

◎中秋講座 「美と芸術の哲学」

期間：平成29年10月10日～12月5日（全6回） 講師：吉岡 洋氏（京都大学教授）

◎初春講座 「テーマ=未定」

期間：未定 講師：片柳榮一氏（聖学院大学大学院 アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所 客員教授）

4. 学術交流

ハノーヴァー哲学研究所との連携を行うほか、ドイツから学者を招待し、講演会を開催します。また、法学系においては国内の学会と連携して、ドイツからの学者による講演会に参加する国内の若手研究者を支援します。

（編集後記）今年、個人・法人をあわせて新しく11名の方が賛助会員に加入されました。また、京都商工会議所の文化・情報部会の委員に本研究所の事務局長が選ばれました。本研究所はさまざまな人々に支えていただいで活動させていただいておりますが、その輪が確実に広がっているのを感じています。

公益財団法人日独文化研究所 所報 第6号 平成29(2017)年12月1日発行

発 行 公益財団法人日独文化研究所

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3

Tel. 075-771-5200 Fax. 075-771-5242

http://www.nichidokubunka.or.jp zaidan@nichidokubunka.or.jp

編集協力 文屋秋栄株式会社